



〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台 6-19-19 Myビル Tel.(043)287-2624 Fax.(043)287-2610  
ホームページ <http://mariyaclinic.com/> メール [info@mariyaclinic.com](mailto:info@mariyaclinic.com)

あけましておめでとうございませう。マリヤ・クリニックは31年目となります。毎年なにかしら新しいことをやってきましたが、患者さんの要望や病状に対応しただけでした。年末年始の皆さんからの回復報告が何よりもうれしく、しばらくきていない患者さんでも、院長は詳細に覚えており、祈っております。今年、中国の発達障害の患者さんを診察治療する計画が進んでおります。本文にあるように中国では発達障害が大きな問題となり、真剣に対処が進んでおります。状況としては日本とあまり変わらないように思われますが、保険診療が日本ほど定着していない分、却って保険が適用されなくても実際の治療を進めたいというニーズが強いようです。日本では保険が適用されるため、医師の診療に依存していますが、中国では診断されるのではなく、治さなくてはならない、という国民性の違いからの強い治療要求、行動があるようです。

日本では、発達障害の支援という傾向が強く、医学界が「発達障害は治らない。支援しかない。」としたら、患者側もそのように対応するようです。実際にはそのご家族の労苦は大変なもので、支援体制が整っても、助けは必要です。子どもの治療で、全ての発達障害児が治ったわけではありませんが、改善して普通学級に進み、却って優秀な才能を発揮している報告を聞くと、感激します。

ともかく、中国での治療が進んだら、日本でも逆に影響を受けて治療が進むのではないかと期待しております。ご本人とご家族の労苦を考えたら、どうにかして進展させなくてはなりません。治療法については公開しております。

11月末にバチカンに視察に行ってきました。枢機卿の方々と挨拶し、普通立ち入りできない所へも案内いただいた上で、昼食と夕食を一緒に過ごさせていただきました。神学学部長とも神学論争をした後、日曜にはピエトロ大聖堂のミサに参加いたしました。カトリックは、1962年から3年を掛けて第二バチカン公会議を行い、時代にあった教会の刷新のために大きな改革を行いました。私達プロテスタントの牧師にとって批判の対象であったことが変えられていることに驚き、敬服をいたしました次第です。

宗教団体のガバナンスについて調査し、執筆予定です。信者と周囲の方々の信仰と敬虔さに支えられ、神と人とに仕えるべく営まれる宗教団体の不始末が、いろいろな事件や問題によって取り上げられ指摘される昨今です。昨年は大学院で監査論を教えてくださった恩師がなくなり、浅学を恥し申し訳なく涙しました。所属する教団では、12年間監事に任じられていますが、果たすべき指針を提示する思いに至りました。為すべき使命かと思っております。 柏崎久雄

### 感染症で受診される方へ

発熱やくしゃみ・咳症状のある方、水ぼうそう等伝染性疾患の方は、入口、待合室・診察室、会計の流れが異なります。また、トイレ後のハンドソープによる手洗いにご協力ください。

- ★ 入口  
正面入口横の中央通路のインターホンを押して下さい。
- ★ 待合室・診察室  
2階の、第二待合室です。
- ★ 会計  
疾患によっては、廊下会計となる場合があります。

### ヨーゼフのキャンペーン

アミノコンプリート、BCAA、グルタミン

### 聖書を読む会

1月16日(火)午後2時～2時20分  
当院待合室にて行います。  
2月は20日(火)です。

- \* インフルエンザワクチンが随時追加納入されています。3歳未満児も接種可能です。ワクチンの在庫を確認の上、ご来院ください。毎日、在庫は変わってきます。
- \* 1月26日(金)は院長が院外検診の為、午後は15時から診察です。
- \* 感冒や咳などの症状があり、受診する方はマスクの着用をお願いしています。受付でも、成人用・小児用を販売しております。
- \* 病児保育のご利用には、前もって登録をしておいてください。ホームページでダウンロードするか、用紙を受け取って書類記入を済ませ、受付時間を確認して、余裕をもって登録にお越しください。
- \* 栄養指導を当日の予約時間までにご連絡がなく、無断キャンセルした場合、10800円のキャンセル料が掛かります。なお、栄養指導料は今年3月より値上げします。
- \* 栄養指導を受けた方は1月からアンケートにご協力ください。すようお願いいたします。次回の栄養指導の参考にします。
- \* (株)ヨーゼフでは、アミノ・コンプリート、BCAA、グルタミンのキャンペーン販売を2月7日まで行います。

## <発達障害の予防>

来春から、中国における発達障害の治療にマリヤ・クリニックが関与を始めます。中国当局によって2016年に公表された自閉症調査レポートによると、中国の発達障害者人数は既に1000万人以上、その内、0～14歳の発達障害児は200万人以上であり、今後毎年、新生児の発病人数は少なくとも20万、30万人ほどが増えると予想されています。調査統計上精度の原因もありますが、現実にはその人数は発表した数値をはるかに超えたと言われています。近年、政府は自閉症など発達障害者家庭の支援対策を非常に重視し、財政、教育、療育、予防と早期診断などに力を入れています。医療機関は、現在のところ殆ど診断のみで、継続的な治療・改善の手段と対策がありません。民間の療育・改善教室などは1000カ所ほどがありますが、専門性と改善効果は別にして、数的にもとても対応しきれない状態です。子供の親たちは、全世界から障害改善・治療の方法を集め、情報はかなり豊富ですが、やはり個人的にやっているケースが多いので、効果には限界があります。

### 1. 母体における発達障害への予防

#### 「胎盤の働き」

受精した後、出産して胎児の器官が機能するまで、栄養補給から排泄、身体の形成に必要なタンパク質の合成やホルモンの分泌、有害物からの防御や解毒、呼吸などを胎盤が主に代行します。

胎盤の腎臓機能によって、胎児の血液と母親の血液が胎盤で直接やり取りすることなく、老廃物の排泄ができるのです。胎盤の腸管機能によって、免疫機能を果たし、病原菌などの異物が入らないようにしていますし、代謝や解毒という肝臓の機能も果たします。さらに、胎盤は大量のホルモンを必要とする胎児のために、脳下垂体や卵巣の内分泌作用も代行します。

#### 「妊娠中の母親の血糖値」

グルコース（ブドウ糖、血糖）は人間の主要なエネルギー源ですが、胎児には母体に比べて20mg/dlほど低いものが送られます。それで、母体が糖尿病などの高血糖、あるいは各種の理由による低血糖の場合には、そのまま胎児の血糖が影響されてしまうために好ましくありません。母体の血糖値は、きちんと管理されることが必要なので、血糖を不安定にする流動性の糖分（飲み物）やスイーツの常食は胎児にとっては危険なものと思われれます。発達障害の子供は、血糖調整の機能が悪いことがあります。

#### 「妊娠中の母親の血清タンパク質」

母体の血清タンパク質は、胎盤でアミノ酸に分解されてから胎児に送りこまれ、胎児の身体を形成していきます。このことも母体のアルブミン値によって確認し、十分なタンパク質が胎児に供給されるように注意をすることが大事でしょう。タンパク質不足の女性が多いのですが、胎児を形成するタンパク質を十分に供給できなくなります。

鉄分の不足、カルシウムの不足、細胞分裂に寄与する亜鉛の不足なども胎児の成長に大きく支障をきたします。

#### 「胎盤を通してしまう薬物・毒物・感染性物質」

分子量の小さいものほど通過しやすく、特に600以下は容易に通過します。通常用いられる薬剤は分子量250～400程度であり、容易に胎盤を通過し、胎児に移行してしまいます。母体の栄養状態が劣悪で胎盤形成に必要なタンパク質等が不足する場合、胎盤の濾過機能が十分に機能せず、胎児に悪い影響を与えるものが供給されてしまう可能性もあります。

更に、成人になるにつれて確立する脳関門が幼児や胎児の場合は未発達のために、有害なものがそのまま脳内に移行してしまうことになり、一度脳内に入ると排出することは難しくなるので、妊婦だけでなく、妊娠の可能性のある女性の有害ミネラルや薬物常用は非常に注意することが大事です。

#### 「胎児のアレルギー反応」

妊娠している母親が食べた食物のうち、腸粘膜を通して吸収された食物抗原の一部は、胎盤を通して胎児に移行しています。その食物抗原に対して、胎児がアレルギー体質を持っていた場合、胎児はアレルギー抗体を作ります。これは胎内感作と呼ばれます。一般的にアレルギー反応は外界の物質に繰り返しさらされることによって起こります。胎児にとって外界の物質とは、母親の摂取した食物に由来する

ものが圧倒的に多く、生まれた赤ちゃんがアレルギー反応を呈した場合、アレルギーはまず食物と考えた方がいいです。

これもまた、母親の栄養・健康状態が劣悪なので、胎盤の機能が十分に働いておらず、分子量の大きい物が侵入してしまった可能性があります。

## 2. 生後の健康管理

### 「腸管免疫の発現」

腸管免疫は免疫系全体の6～7割を担っていますが、腸内細菌に感染することが免疫系の形成に関わることがわかってきております。

胎内は無菌状態なので、出産時に産道を通るときに口や鼻を通して細菌（善玉菌・悪玉菌）を腸管へ侵入させて、初めて感染して腸内環境を形成します。善玉菌は嫌気性菌のため、帝王切開で産まれた子供が善玉菌の移植を受けるのは難しいこととなります。新生児の胃酸分泌は、生後24時間で確立されるとのことですから、胃酸に害されないで善玉菌を補給するためにも、なるべく分娩による正常出産を図るべきです。産道の環境は腸内環境と似ているため、母親の腸内環境の状態も重要です。

### 「母乳が免疫力をつける」

体内では免疫グロブリンのIgGが胎盤を通して供給され、母乳中の分泌型IgAは、酸やタンパク質分解酵素の影響を受けにくく、細菌やウイルスによる腸管内侵襲から新生児の腸管を防御します。IgMやIgGも含まれており、母乳中の免疫グロブリンの量は、母乳に含まれる総タンパクの6～10%を占めているようで、特に出産後5日間は多く、新生児の免疫力を高めています。

母乳には善玉菌を増やすオリゴ糖がたっぷり入っており、ビフィズス菌は母親の乳頭に存在して、授乳のときに移っていくようです。人工乳の場合には、オリゴ糖やプロバイオティクス（生きた状態で腸に到達する微生物や乳酸菌）を補給すると、未熟児の壊死性腸炎や脳室内出血を抑え、免疫系の弱い子どもの気管感染・中耳炎・胃腸炎などにも良い結果を与えていると報告されています。

赤ちゃんの便の状態は母親の栄養状態を反映し、母乳は血液から作られるため、母親の血液状態は赤ちゃんの栄養状態にも直結します。乳児は体調の悪いお母さんの母乳を飲みたがらないこともあるので、母親の健康管理が大事です。

母親が脂肪分の多い食事を摂ると母乳がドロツとして乳腺が詰まることもあり、糖分の高い食事を摂ると乳房の循環が悪くなり、赤ちゃんが母乳を飲みづらくなるようです。糖質の少ない伝統的日本食を母親が摂る習慣を付けるとミネラルやビタミンも豊富で、母乳の味も美味しくなるようです。新生児でも味覚はあり、腐ったものや苦いものは拒み、健康な子は人工乳でも好き嫌いを示します。

### 「離乳食の注意」

新生児のタンパク質分解酵素は、成人の6割くらいしかなく、生後1年で成人に近づきます。ですから1歳未満児は、消化酵素が十分でなく、未熟な酵素では摂取したタンパク質が上手く消化しきれません。大きい分子が消化できずにそのまま吸収されるので異質な抗原物質として認識され、その結果アレルギーが引き起こされる可能性があり、一旦アレルギーが起きると皮膚にだけではなく腸粘膜にも炎症が起こります。

発達障害児は極端な栄養不足がある場合が殆どです。その子にあった消化の良い食事を十分に考慮して与えることが必要です。卵や牛乳など見た目が柔らかい物が吸収が良いとは限りません。離乳食の初めに卵や牛乳を与えることには注意が必要です。食物アレルギーは、卵、牛乳、小麦など簡単に利用できるものに集中していることも考慮してください。

### 「子ども達の食事」

甘いお菓子やジュース、ジャンクフードなどの過剰摂取により過度のインスリンを出すようになると、すい臓が疲れ血糖調節が悪くなり低血糖をおこします。まだ十分に身体が形成していない乳幼児に精製した食品は、消化も吸収も早くそのまま内臓にダメージを与えやすいのです。

低血糖時に血糖を上昇させるためにアドレナリンが急激にでると、交感神経緊張症状が出るのと同時に脳の前頭葉が麻痺してしまい、理性的な判断が行えなくなります。低血糖による脳のエネルギー不足で起こる機能障害（無気力、憂うつ感、攻撃性の出現など）は、成長期の子供の脳に、情動ストレスと

からみあって大きな悪影響を与えるため、甘い食物の摂取には慎重な対応を必要とします。なお、味覚は生後5か月頃から鈍くなり、3、4歳でその子の味覚が形成されるようです。その時期に甘い物やジャンクフードを食べさせると生涯に亘って肥満体質その他の弊害が起こります。注意してください。

### 「有害ミネラルへの注意」

血液脳関門は、体内に吸収された物質や外から侵入した有害物質、そして、体内で異常に増えたホルモンなどが血管を通り、脳の中に入ろうとする際に、中枢神経を守るバリアの役目を果たします。脂溶性物質は通りやすく、必要なものだけを脳へ通すように選択しています。この血液脳関門は、0.5～1歳の間に閉じますが、それまでは開いています。この血液脳関門未形成の間に、脳にとって不必要あるいは有害な栄養やミネラル、重金属、ホルモンが脳に送られた場合に、脳は無差別にそれらを取り込み、悪い影響を受けることとなります。胎児にも血液脳関門は機能しており、すべての胎児に透過性が高いわけではないという最近の研究の成果もありますが、発達障害児では、その機能が十分に働いていないことが考えられます。

### 「乳幼児期の予防接種」

水銀の毒性としては水俣病が有名ですが、自閉症とされる重度の発達障害の患者には同じような症状が見られることがあります。チメロサルはエチル水銀で、水俣病のメチル水銀ではなく、毒性が低いと言われ、体外へ排出されやすいとされますが、この排出機能が弱い人もいるのではないのでしょうか。アメリカでは、乳幼児期に受けたワクチンがもとで自閉症が起こったとして、ワクチン製造会社を訴える訴訟が多く起こっております。厚生省は6か月以上3歳未満の幼児は半分の0.25mlを2回と定めていますが、脳関門の関係から1歳以上のほうが良いかもしれません。

### 「遺伝性の要因について」

発達障害の中でも自閉症スペクトラム障害では遺伝性要因が大きいとされていますが、それでもゲノム異常や遺伝子変異は40%程度とされているようです。一卵性双生児の一人が発達障害の場合に、もう一人が発達障害である割合は60～90%、二卵性双生児では10%未満であると報告されていますが、双生児の場合には環境要因も同様であり、発達障害は遺伝性がすべてではないことは確認されています。遺伝子検査というのは病気を確認するためになされているのではなく、原因を探るためになされているのが現在の状況であることは知っておく必要があります。

### 「親の躾や育て方について」

親の躾や育て方は発達障害とは関係がありません。わがままな子どもが心理的に心を閉ざしたり、興奮したりした状態でもありません。ただ、発達障害の治療には、治療法についての親の十分な理解と丁寧な対処が必要です。IgGアレルギーやペプチドなどの結果が出た場合には、食事や補助食品・サプリメントについて十分に理解して、子どもに必要な栄養を摂らせることが大事です。それは、だいたい2年くらいで軽減し、3年ほど経つと脳が自己回復と形成を始めるので、普通の児童と殆ど変わらない育て方になっていくのが通例です。

### 「治療について」

治療はすべて保険が効きませんので、自費で行われ、指定の検査を受けなければ治療は進められません。検査や治療法を指定される場合には、当院では対応できません。

#### ＜ 診 療 時 間 ＞

月曜～金曜（午前8時30分～12時10分、午後2時30分～5時30分）

土曜（午前8時30分～12時10分、午後2時～4時）

休診日 木曜、日曜、祝日、年末年始

- ・各種健康保険取扱機関
- ・生活保護指定機関
- ・介護保険取扱機関
- ・特定疾患取扱機関
- ・結核予防法指定機関
- ・自立支援医療機関
- ・身体障害者認定医
- ・各種健康診断
- ・小中台小学校校医
- ・栄養療法(分子整合医学)



(携帯サイトへ)